

地域看護学

1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在	
教授	2 人	
准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	2 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	5 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	10 人	

2 教員の異動状況

巽あさみ	（教授）	（H16.4.21～現職）
鈴木みずえ	（教授）	（H20.8.1～現職）
大塚敏子	（准教授）	（H20.4.1～講師、H24.8.1～現職）
水田明子	（助教）	（H20.4.1～現職）
今田万里子	（助教）	（H24.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4 編	(3 編)
そのインパクトファクターの合計	1.45	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	2 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	4 編	(4 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	10 編	(10 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	8 編	(8 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 鈴木みづえ, 三浦真澄, 鈴木初枝, 木本明恵, 江向洋子, 林辰弥, 認知症高齢者の家族介護者に対するソフトマッサージ(タクティールケア)のストレス・介護負担の緩和,健康の回復に関する有効性の検討, 看護研究, 45(6), 589-602, 2012
 2. 鈴木みづえ, 桑野康一, 下山 久之, 遠藤英俊, 地域における認知症ケアマッピング(DCM)を用いた施設間相互評価の効果と課題, 日本認知症ケア学会, 11(2), 563-575, 2012
 3. 鈴木みづえ, 水野裕, Brooker Dawn, 大城一, 金森雅夫, 認知症ケアマッピング(DCM)における認知症高齢者のQOL指標に影響を及ぼす行動 よい状態とよくない状態(WIB値)と行動カテゴリー(BCC)の関連, 日本老年医学会雑誌, 49(3), 355-366, 2012
 4. Suzuki M, Kurata S, Yamamoto E, Makino K, Kanamori M. Impact of fall-related behaviors as risk factors for falls among the elderly patients with dementia in a geriatric facility in Japan. Am J Alzheimers Dis Other Demen, 27(6), 439-46, 2012 (doi: 10.1177/1533317512454706.)

インパクトファクターの小計 [1.45]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 鈴木みづえ, 桑原弓枝, 吉村浩美, 内田達二, 菊地慶子, 水野裕, 急性期医療において看護師が感じる認知症の行動・心理症状(BPSD)の対処困難感とケアの関連, 第13回日本早期認知症学会講演, 86-89, 2012
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの
1. 井口真紀, 大石鮎美, 村上典子, 石川恭子, 熊谷有起, 小池恵史朗, 中澤悠, 鈴木みづえ, 谷重喜, 伊藤友孝, 介護予防事業対象高齢者における事業後の歩行機能および意識評価とフォローアップ, 第13回日本早期認知症学会講演, 146-147, 2012

(2-2) レター

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 巽あさみ, 働く女性の健康管理の現在-女性労働者のワーク・ライフ・バランス、産業医学ジャーナル, 36(2), 13-18, 2013
 2. 巽あさみ, 小林章雄, 大塚敏子, 住吉健一, 飯田忠行, 大田充彦, 【広がりゆく睡眠医療の可能性-包括的ケアシステムの構築と多職種連携-】 職域における不眠スクリーニングを基盤と

した保健指導システムの構築, 睡眠医療, 6(4), 545-551, 2012

3. 鈴木みずえ, 最近注目されている非薬物療法 タッチケア(タクティールケア)の現状と課題, 認知症の最新医療, 2(4), 185-190, 2012
 4. 鈴木みずえ, 急性期医療における看護実践に活かすためのパーソン・センタード・ケアの理念と実践, 看護, 64(10), 060-063, 2012
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 巽あさみ, 睡眠保健指導マニュアル 2012 年版, 1-46, 2012
 2. 巽あさみ, 積極的傾聴のすすめ方—看護職のメンタルヘルスケアアプローチ—, 1-12, 2013
 3. 巽あさみ, 成人期の保健指導, 1-18, 2013
 4. 巽あさみ, 産業看護活動 作業環境測定—演習方法について—, 1-28, 2013
 5. 鈴木みずえ, タクティールケアは血圧をさげる効果はあるの?, 鈴木みずえ, 木本明恵, 原智代, 千葉京子編, 始めてみようよ タクティールケア, クオリティケア, pp.24, 2012, 東京
 6. 鈴木みずえ, ターミナル期にある認知症高齢者によりそうタクティールケア, 鈴木みずえ, 木本明恵, 原智代, 千葉京子編, 始めてみようよタクティールケア, クオリティケア, pp.28-30, 2012, 東京
 7. 鈴木みずえ, タクティールケアの意義と認知症高齢者に対する有効性, 鈴木みずえ, 木本明恵, 原智代, 千葉京子編, 始めてみようよ タクティールケア, クオリティケア, pp.85-98, 2012, 東京
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの
1. 巽あさみほか, 分担タイトル: 産業ストレスと産業看護、日本産業ストレス学会編, 産業ストレスとメンタルヘルス—最先端の研究から対策の実践まで—, 中央労働災害防止協会, 東京, pp11-13, 2012
 2. 巽あさみ, 分担タイトル「私と産業ストレス: 職場メンタルヘルス対策としての睡眠保健指導 「眠れていますか?」, 日本産業ストレス学会編集委員会編, リレーコラム 私と産業ストレス, 日本産業ストレス学会, 奈良, pp23-24, 2013
 3. 柳川洋, 尾島俊之, 北村邦夫, 中村好一, 倉田貞美, 近藤今子, 巽あさみ, 筒井秀代, 坪井聡, 中村美詠子, 西山慶子, 原岡智子, 水田明子, 渡辺晃紀 (五十音順), 保健指導ノート 2013 公衆衛生の現状, (社) 日本家族計画協会, 東京, 2013

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 巽あさみ, 小林章雄, 大塚敏子, 竹下千世, 渡辺留美, 「大規模事業所におけるうつ病・自殺対策のための睡眠保健指導システムの開発に関する研究」報告書, 2013
 2. 巽あさみ, 小林章雄, 渡辺留美, 行政におけるうつ病・自殺対策のための睡眠保健指導システムの開発に関する研究」報告書, 2013
 3. 巽あさみ, 睡眠に関する看護実践の現状と展望 不眠スクリーニングを基盤とした自殺予防のための保健指導システムの構築, 日本睡眠学会定期学術集会プログラム・抄録集 37 回, 179, 2012
 4. 巽あさみ, 睡眠保健指導 Vol.2 個別睡眠保健指導～行動変容を促す保健指導の実際～DVD25分, 2013
 5. 巽あさみ, 睡眠保健指導 スッキリ睡眠でイキイキと～快眠へ誘う8つのポイント～DVD36分, 2013
 6. 鈴木みずえ, 第2章 転倒予防, 山本則子, 文部科学省研究費基盤研究(a) (課題番号: 20249086) 「高齢者訪問看護指標を用いたインターネット訪問支援システムの有効性」平成 20～24 年度報告書, 25-32, 2013
 7. 鈴木みずえ, 第4章 修正版 高齢者訪問看護質指標, 山本則子, 文部科学省研究費基盤研究(a) (課題番号: 20249086) 「高齢者訪問看護指標を用いたインターネット訪問支援システムの有効性」平成 20～24 年度報告書, 150-152, 2013
 8. 水田明子, 尾島俊之, 巽あさみ, 野田龍也, 中学生の心の健康調査報告書, 浜松医科大学, 2013
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 24 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	8 件	(799 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	1 件	(965 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

- ・ 巽あさみ (研究代表者), 基盤研究 (C), うつ病・自殺予防のための健康診断における不眠に対する保健指導システムの開発, 90 万円 (継続)
- ・ 巽あさみ (研究分担者), 基盤研究 (C), 発達障害児の養育者に対する保健師および保育士の

支援実態と相互役割期待, 研究代表者 大塚敏子, 10 万円 (新規)

- ・ 鈴木みづえ (研究代表者), 基盤研究 (B), 臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質評価指標の開発, 260 万円 (継続)
- ・ 鈴木みづえ (研究代表者), 挑戦的萌芽, 看護師が困難と感じる認知症の行動心理症状の明確化と急性期認知症の看護モデルの開発, 104 万円 (新規)
- ・ 鈴木みづえ (研究分担者), 基盤研究 (A), 高齢者訪問看護質指標を用いたインターネット訪問看護支援システムの有効性検討, 研究代表者 山本則子, 15 万円 (継続)
- ・ 鈴木みづえ (研究分担者), 基盤研究 (B), 臨床判断能力育成を包括した転倒予防のコンピューターシュミレーションプログラムの開発, 研究代表者 加藤真由美, 19 万 9 千円 (新規)
- ・ 大塚敏子 (研究代表者), 基盤研究 (C), 発達障害児の養育者に対する保健師および保育士の支援実態と相互役割期待, 90 万円 (新規)
- ・ 水田明子 (研究代表者), 基盤研究 (C), 中学生の抑うつと家族機能及びソーシャルサポートの関連, 210 万円 (新規)

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

- ・ 巽あさみ (研究代表者), 受託研究, うつ病・自殺予防のための健康診断における睡眠保健指導の調査研究, 静岡県子ども家庭相談センター, 平成 24 年 5 月～平成 25 年 3 月, 965 万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	3 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	3 件
(3) 学会座長回数	0 件	4 件
(4) 学会開催回数	0 件	1 件
(5) 学会役員等回数	0 件	17 件
(6) 一般演題発表数	1 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

- ・ Kondo R, Nakamura S, Nagashima M, Irisawa H, Suzuki M, Mizushima T, Effects of dynamic-intensive exercise for gait ability in chronic stroke patients -Randomized controlled trial-, American congress rihaviritation mdecicne 2012 Annual Conference 11-3 October 2012(Canada, Vancouver)

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

- ・ 鈴木みづえ：平成 24 年度日本認知症ケア学会東海地域大会学会長，2012.12，名古屋

2) 学会における特別講演・招待講演

- ・ 巽あさみ：シンポジウム招待講演発表「睡眠に関する看護実践の現状と展望，不眠スクリーニングを基盤とした自殺予防のための保健指導システムの構築」，第 37 回日本睡眠学会定期学術集会，2012.6，横浜
- ・ 鈴木みづえ：特別講演「DCM(認知症ケアマッピング)法を実践に生かす」，第 13 回日本認知症ケア学会大会，2012.5，浜松
- ・ 鈴木みづえ：大会長講演「認知症の人のもてる力を引き出すケアの可能性」，平成 24 年度東海地域大会東海地域大会，2012.12，名古屋

3) シンポジウム発表

- ・ 巽あさみ：シンポジウム発表「健康診断時における不眠スクリーニングと保健指導システムについて」，第 85 回日本産業衛生学会，2012.5，名古屋
- ・ 巽あさみ：シンポジウム発表「大学の立場から産業看護職に望む支援～女性労働者の WLB の視点から～」，第 85 回日本産業衛生学会，2012.6，名古屋
- ・ 巽あさみ：シンポジウム発表「不眠スクリーニングを基盤とした睡眠保健指導システムの構築に関する研究～うつ病・自殺予防の視点から～」，平成 24 年第 7 回浜松医科学シンポジウム，2012.9，浜松

4) 座長をした学会名

- ・ 巽あさみ，第 85 回日本産業衛生学会，2012.5，名古屋
- ・ 鈴木みづえ，第 9 回転倒予防医学研究会研究集会，2012.10，東京
- ・ 鈴木みづえ，平成 24 年度日本認知症ケア学会東海地域大会，2012.12，名古屋
- ・ 大塚敏子，第 43 回日本看護学会（看護総合），2012.8，静岡

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- | | | |
|-------|------------|--------------------|
| 巽 あさみ | 日本産業衛生学会 | 代議員 |
| 巽 あさみ | 日本地域看護学会 | 評議員、査読委員 |
| 巽 あさみ | 日本産業衛生学会 | 代議員、東海地方会理事 |
| 巽 あさみ | 日本産業看護学会 | 理事、編集委員長 |
| 巽 あさみ | 日本看護医療学会 | 理事、査読委員 |
| 巽 あさみ | 日本産業ストレス学会 | 理事、編集委員 |
| 巽 あさみ | 日本産業衛生学会 | 産業精神衛生研究会世話役 |
| 巽 あさみ | 日本産業衛生学会 | 職場ストレス研究会ワーキングメンバー |

- 異 あさみ 日本産業衛生学会 就労女性健康研究会世話役
 鈴木みずえ 日本看護研究学会 理事、査読委員、東海地方会世話人
 鈴木みずえ 日本早期認知症学会 理事、査読委員
 鈴木みずえ 第14回日本早期認知症学会大会実行委員、プログラム委員
 鈴木みずえ 日本老年看護学会 評議委員、学会誌編集委員
 鈴木みずえ 日本認知症ケア学会 評議委員、査読委員、東海地域部会委員
 鈴木みずえ 第13回日本認知症ケア学会大会 大会実行委員
 鈴木みずえ 転倒予防医学研究会 世話人、学術委員
 大塚 敏子 (社)静岡県看護協会 第43回日本看護学会(看護総合)抄録選考委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0件	0件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

- 鈴木みずえ：2回 Geriatrics and Gerontology International (日本)
- 鈴木みずえ：1回 Japanese Journal of Nursing Science (日本)

9 共同研究の実施状況

	平成24年度
(1) 国際共同研究	1件
(2) 国内共同研究	4件
(3) 学内共同研究	1件

(1) 国際共同研究

- 鈴木みずえ, Ate Dijkstra (NHL University of Applied Sciences, Netherlands)：認知症高齢者の心身の依存度と認知症の行動心理症状(BPSD)に関する国際比較研究

(2) 国内共同研究

- 異あさみ, 小林章雄(愛知医科大学)：うつ病・自殺予防のための健康診断における不眠に対する保健指導システムの開発
- 鈴木みずえ, 泉キヨ子(帝京科学大学), 谷口好美, 平松知子, 加藤真由美(金沢大学), 水谷信子(甲南女子大学), 丸岡直子(石川県立大学), 岡本恵理(三重県立看護大), 加藤真由美(金沢大学), 小林小百合(東京工科大学)：臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質評価指標の開発
- 鈴木みずえ, 山本則子(東京大学)：高齢者訪問看護質指標を用いたインターネット訪問看護支援システムの有効性検討
- 鈴木みずえ, 加藤真由美(金沢大学)：臨床判断能力を包括した転倒予防のシュミレーションプログラムの開発

(3) 学内共同研究

- ・ 巽 あさみ, 大塚敏子 : 発達障害児の養育者に対する保健師および保育士の支援実態と相互役割期待

10 産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

- (1) 国際的な授賞
- (2) 外国からの授与
- (3) 国内での授賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. うつ病・自殺予防のための健康診断における不眠に対する保健指導システムの開発

本研究は日本の現役世代の自殺を予防するための睡眠を切り口としたメンタルヘルス対策としての研究テーマである。睡眠障害はうつ病に多く見られる症状であり、適切な睡眠をとることでうつ病等が予防できると推測される。介入研究について分析した。健康診断受診時に 20 歳～64 歳までの同意が得られた受診者に対して 1 回目の「睡眠に関する調査」を実施し（有効回答数は介入群 1,462 人、非介入群 2,036 人）、介入群の中の高リスク者に約 20 分の個別保健指導を実施した。1 か月後に経過をみるために 1 回目と同項目の「睡眠に関する調査」（介入群 1,224 人、非介入群 1,444 人）を実施した。今回の分析対象は、1 回目、2 回目共に調査に回答した者のうち、介入群の保健指導実施者の男性 167 人と、非介入群の要保健指導者（要保健指導であるが保健指導を実施していないコントロール群）の男性 412 人について、保健指導の効果について、時間経過と群間比較（2 元配置分散分析）によって検討した。その結果、「早朝に目覚めて、その後眠れなくて困る」（ $p=0.005$ ）、「眠ったのによく眠れたという熟睡感がなくて困る」（ $p=0.021$ ）、「眠っても疲れがとれた感じがしない」（ $p=0.001$ ）の項目において、睡眠保健指導を実施した介入群の方がしなかった非介入群より有意に改善していた。また、保健指導の満足度も 70% と高かった。以上のことから、睡眠保健指導は効果があることが示唆された。（巽あさみ、小林章雄（愛知医科大学））

2. 臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質評価指標の開発

臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質評価指標の各項目に関して分担研究者とともに開発した。老人保健施設、療養型病床群、認知症認定看護師に指標の実施状況などの全国アンケートを実施した。（鈴木みずえ，泉キヨ子（帝京科学大学），谷口好美，平松知子，加藤真由美（金沢大学），水谷信子（元兵庫県立大学），丸岡直子（石川県立大学），岡本恵理（三重県立看護大），加藤真由美（新潟大学），小林小百合（東京工科大学），菊地慶子）

3. 高齢者訪問看護質指標を用いたインターネット訪問看護支援システムの有効性検討

高齢者訪問看護質評価指標「転倒予防」に基づくインターネットを用いた訪問看護師への支援プログラムが、訪問看護サービスの向上や利用者の評価につながるかを分析して、プログラムの有効性を検討した。浜松市内と豊橋市の訪問看護ステーションに参加を依頼して1年間の介入を継続し、訪問看護師にとって有効であることを明らかにした。(鈴木みずえ, 山本則子(東京医科歯科大学))

4. 臨床判断能力を包括した転倒予防のシュミレーションプログラムの開発

看護師の転倒予防に関する臨床判断能力を向上させるための転倒予防のシュミレーションプログラムの開発に取り組んだ。特に、Tanner、Lasater のモデルを転倒予防の実践に応用するための検討や転倒予防実践の学習の進捗・深度を評価するためのルーブリックを作成した。(鈴木みずえ, 加藤真由美(金沢大学))

5. 認知症高齢者の心身の依存度と認知症の行動心理症状(BPSD)に関する国際比較研究

ケア依存度尺度(Care Dependency Scale)を用いて、日本とオランダの認知症高齢者の介護負担度の状況や認知症の行動心理症状に関する国際比較研究を計画し、情報交換するとともに評価票や研究方法などを検討した。(鈴木みずえ, Ate Dijkstra (NHL University of Applied Sciences, オランダ))

6. 発達障害児の養育者に対する保健師および保育士の支援実態と相互役割期待

「発達障害があると思われるが診断はされていない子ども」いわゆるグレーゾーンの子どもの持つ養育者に対し、地区担当保健師および保育士がどのように連携して支援していけば養育者の心理的不安の軽減や適切な養育行動の促進につながるのかについて研究を行っている。2012年11月に本学倫理委員会の承認を得、現在は保健師および保育士へのインタビュー調査に向けて調査対象者が所属する市と調査実施に関する調整を行っている。(大塚敏子)

7. 中学生の抑うつ状態と家族機能及びソーシャルサポートの関連

静岡県の菊川市と湖西市の中学生 2,971 人、中学校教師 117 人に心の健康調査を実施した。中学生の抑うつ状態の緩和につながる個人的特性や、保護者の養育態度、周囲のサポートや環境を明らかにするための研究である。中学生の心の健康状態について、Birlleson 自己記入式児童用抑うつ性尺(DSRS-C)、家族機能測定尺度 20 項目(FACES III)、学生用ソーシャルサポート尺度(SESS)、時間的展望体験尺度を用いて測定した。教員の抑うつ状態については K6(うつ病スクリーニング調査票)を用いて把握した。生徒と教員のデータをクラスと学校単位で集計して特徴を明らかにし、教育現場での具体的な介入方法を検討する。(水田明子, 尾島俊之, 巽あさみ, 野田龍也)

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 睡眠保健指導の意義と重要性について、昨年作成した「保健師や栄養士など睡眠保健指導担当者向け保健指導マニュアル」をより使用しやすいように改訂版マニュアルを作成した。また、昨年の成果物である睡眠のメカニズム、メンタルヘルスとの関連、研究で得られた保健指導の効

果について解説している「睡眠保健指導の重要性」DVD に引き続き、「個別睡眠保健指導-行動変容を促す保健指導の実際-」と一般の方向け「スッキリ睡眠でイキイキと-快眠へ誘う 8 つのポイント」DVD を作成した。このシリーズの 3 種類の DVD と保健指導マニュアルを使用することで、保健師等が睡眠保健指導がスムーズに実施できるようになると考えられる。実際にこれらの資料を使用した静岡県保健指導者研修会を平成 24 年度は 2 回実施し（116 名が受講）普及に努めた。（巽あさみ、小林章雄（愛知医科大学））

2. 高齢者訪問看護質指標（転倒予防）を用いたインターネット訪問看護支援システムを用いた介入を訪問看護ステーションの看護師を対象に 1 年間継続して実施することで、看護師の転倒予防に対する知識および転倒予防に関する援助の自信が有意に改善した。訪問看護師はパートが多く研修の機会が少ないが、WEB を用いて本システムを短時間であっても 1 年間活用したり、看護師自身が WEB 上でケアに関して意見交換することで訪問看護の質の向上が示唆された。（鈴木みづえ、山本則子（東京大学））

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. うつ病・自殺予防のための睡眠保健指導に着目した研究において、開発した「WEB による睡眠に関するシステム」は、睡眠調査を実施するにあたって、印刷する必要がないこと、また、調査の結果がその場で画面で確認できるようにプログラムされているため、速やかに保健指導が実施できるというメリットがある。また、健康診断時に睡眠状況をチェックし、必要な対象者に保健指導を実施する本システムは、多くの対象者をカバーできること、既存の間診項目に追加することで実施が可能であること、プロセスがシンプルで保健師が配置されているどの職域（事業所）や市町村保健センター（行政）においても取り入れやすい等のことからメンタルヘルス対策として導入することが経済性からみて応用性に優れていると考えられる。また、睡眠保健指導システムとして保健師・栄養士等保健指導者が保健指導を効果的に実施できるよう、保健指導対象者の選定、必要な保健指導内容、実施した保健指導記録等活用できる内容を包含しており、保健指導者への支援システムであることも大きな特徴である。（巽あさみ、小林章雄（愛知医科大学））
2. 認知症高齢者の心身の依存度と認知症の行動心理症状(BPSD)に関する研究では、ケア依存度尺度(Care Dependency Scale)を用いて、日本とオランダの認知症高齢者の介護負担度の状況や認知症の行動心理症状に関する国際比較研究を検討した。（鈴木みづえ、Ate Dijkstra（NHL University of Applied Sciences, オランダ））

15 新聞，雑誌等による報道

1. 巽あさみ他：安全衛生に関する県内の優良事業場の表彰，表彰事業場（個人）の主な取り組み内容について，安全衛生推進賞，静岡労働局 Press Release, 2012 年 9 月 27 日
2. 鈴木みづえ：「認知症高齢者尊厳重視のケア紹介」浜松医科大で英博士が講演，2013 年 6 月 6 日静岡新聞

3. 鈴木みづえ：高まる注目！ 認知症をもつ人にパーソン・センタード・ケアを！日本にパーソン・センタード・ケアを普及するための2つの講演，日本看護協会機関誌グラビア，2012年7月20日
4. 鈴木みづえ：触れるだけで不安や痛みを和らげる！スウェーデンに伝わる癒しの秘法 タクティールケア，チャクラ，アイア株式会社
5. 鈴木みづえ：米国 MDLinx における論文紹介（American Journal of Alzheimer's Disease and Other Dementias に掲載された論文が MDLinx というサイトで紹介された），Suzuki M, Kurata S, Yamamoto E, Makino K, Kanamori M. Impact of fall-related behaviors as risk factors for falls among the elderly patients with dementia in a geriatric facility in Japan. Am J Alzheimers Dis Other Demen. 27(6):439-46. 2012, <http://www.mdlinx.com/medical-student/news-article.cfm/4167240>